



資料 2

令和 2 年度事業計画

令和 2 年 3 月 2 日

スマートシティたかまつ推進協議会事務局

● 防災分野

- ・現在の降雨状況から近未来（1時間程度後）の水位予測が可能なシステム実装
- ・インフラ事業者からの情報提供ツール導入

● 観光／交通分野

- ・観光MaaSの導入に向けた検討

● 福祉分野

- ・ウェアラブル端末などによる高齢者見守りシステムの実用化

● 農業分野

- ・気象・土壌センサー等によるデータ収集

● まちづくり分野

- ・バスロケーションシステムの導入



プラットフォーム上の官民の動的・静的データを今後充実させ、複数分野でのデータ利活用により、行政効率化・地域課題解決を実現

● 産学民官連携の充実

- ・ 多様な主体との連携による、新たなビジネスモデルの創出

● 広域連携

- ・ 「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏」（高松市を含む3市5町）などにおける広域連携の拡大
- ・ スマートシティの実現に向けて取り組んでいる他都市との連携（プラットフォーム連携やサービスの連携）

● 人材育成、普及啓発

- ・ デジタル人材の発掘、育成のため、「デジカン塾」の開講
- ・ シビックテックとの連携拡大



多様な主体との連携を通じて、データ利活用の環境を整備



概要

高松市等の地方都市においては、5G、AI、IoT等の最新テクノロジーに関する知識習得の場が非常に少ない

スマートシティたかまつの実現にはデジタル人材の発掘、育成は不可欠である

スマートシティたかまつ推進協議会には、ICT業界を牽引している企業が会員となっている

スマートシティたかまつ推進協議会会員企業、団体等の協力を得て「最新テクノロジーに関するセミナー」を高松市内で2020年4月より定期的（1～2回／月）に開催する

主 催：スマートシティたかまつ推進協議会
開催場所：瓦町FLAG6F (株)STNet セミナールーム
開催日時：原則、毎月第二金曜日 17:00～18:30
対象者：一般社会人、高校生、高専生、大学生、専門学校生

効果

デジタル人材の発掘、育成

エンジニア間の定期的な情報交換によるイノベーション（スタートアップ）の創出

中心市街地活性化

デジタル人材育成セミナーについて



スケジュール (予定)

開催回 日程		講師希望	テーマ	
1	4/10	NTTCom	クラウド	クラウドの10年とこれからの10年
2	5/15	NTTデータ先端技術	AI	誤解を解く人工知能AI技術の解説とその活用のヒント
3	6/12	TIS	セキュリティ	東京オリンピック・パラリンピックで見えてきた、スマートシティの未来
4	6/26	ソフトバンク	ビッグデータ解析	データプラットフォーム構築の必要性
5	7/10	NEC	量子コンピュータ	量子コンピュータ、どう動いてどう使う？ (今後の技術動向をわかりやすく)
6	7/22	NTT西日本	電子書籍	電子書籍市場のこれまでと今後
7	8/7	CTC	海外の最新動向	中国・深センのビジネスならびに新技術(ソリューション) 動向
8	8/21	NTTドコモ	Beyond5G	5G/6Gの動向とNTTドコモの取り組み
9	9/11	セキュアサイテック D3E	セキュリティ	セキュリティ業界の動向と課題
10	9/25	電通	MaaS・無人運転	
11		NTTCom	5G	ローカル5Gと活用の可能性
12		TIS	ブロックチェーン	ブロックチェーン『BitCoin』における動向と今後の展開
13		日本IBM	AI	
14		NEC	スマートシティ	「Society 5.0」の実現に向けたスマートシティの取り組み
15		NTTドコモ	電池	環境・災害に対応した無線基地局向け電源システムのグリーン・スマート電力の開発動向

打診中

打診中

予定

セミナー名称、ロゴマーク（案）

名称

デジカン塾

～ デジタル等の勉強会やセミナーを行うカンファレンスルームの略 ～
⇒カンファレンス＝缶詰＝知識を詰め込むという意味を込めた！

ロゴ
マーク



●中小企業のICT活用における現状と課題

- 高松商工会議所加入の市内中小企業約4,800社中、課題分析までできているのは5%程度。→課題意識が高い経営者は既に取り組んでいる
- 多数の中小企業が「経営上、何が課題か」認識しておらず、また、どのような課題にICTを活用すべきか、理解していない。
- 企業によってICTリテラシーがばらばらである。
- 企業の規模、業種等により、業務プロセスが異なる。
共通課題としては、ホームページの整備、キャッシュレスへの対応など。
- 人材がないため、ICTベンダにすべて任せたい企業が多い。
- ICT活用におけるコスト負担が経営を圧迫する。



- ICTでできることを理解してもらう必要がある。
- ICTリテラシーの違いに応じて、サービスを提供する必要がある。
- より多数の中小企業から課題・ニーズを把握し、明確化する必要がある。
- 多数の中小企業に活用してもらえ分野で取り組む必要がある。
- コスト負担を軽減する必要がある。

●連携して取り組む内容

- (1) ICTフェアや勉強会などを開催し、ICTリテラシーの向上を図る。
⇒団体や業種に特化したイベントの開催（中小企業団体中央会に協力依頼）
- (2) 経営相談・診断できる場を拡大し、課題・ニーズを明確化する。
⇒商工会議所などで、経営相談・診断の場を拡大
- (3) 明確化した課題・ニーズを分析し、共通する課題・ニーズを整理する。
※共通化できない課題・ニーズは、既存の補助のスキームを活用
- (4) 共通する課題・ニーズで活用できるICTを特定する。
※既存の製品・サービスがある場合は、既存の補助のスキームを活用
- (5) 既存の製品がない場合は、スマートシティたかまつ推進協議会の会員で連携し、新たなサービスを創出する。

上記の対応策に加えて、
分野（業種）を限定してトライアル的（短期的）に取り組むことも検討する。

今後のスケジュール（イメージ）



	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総会等	▼ 総会						
運営 委員会			▼ 5月 第11回			▼ 8月 第12回	
WG							
人材育成環境向上 WG（19年5月～）	→		↑ 報告			↑ 報告	
健康経営 WG（18年5月～）	→	→	→	→	→	→	
観光情報利活用 WG（18年8月～）	→		↑				

※WGは議論の進捗に応じて適宜開催